

刑務所囚人への更生プログラム

社会復帰のための就労移行支援カフェと演劇による更生プログラム

【キーワード】

〔施設種別〕高齢者施設 障がい者施設 子ども施設 住宅（住宅型ホテル） 地区の家，他
 〔運営主体〕市区町村 法人 NPO 個人 社会的協同組合
 〔建物形式〕1棟単体型 複数棟集合型 団地型 集落
 〔建物状況〕新築 増築 改修 一部改修 既存
 〔対象者〕高齢者 障がい者 子ども ファミリー 多世代 移民 服役者



写真1 グラツィア氏へのヒアリングの様子

日本では馴染みがないが、イタリアの刑務所では囚人の更生プログラムの一環で演劇が行われる。サルツォ刑務所では演出家グラツィア氏が主宰する劇団が演劇ラボを開き、刑務所外でも公演するほどの芝居を演じている。またグラツィア氏は演劇を通して更生した囚人たちの社会復帰を支援するための就労移行支援カフェも運営する。

視察月日 11月7日

記録担当者 古賀政好，松原茂樹

案内者 グラツィア氏（劇団主宰者）

マルコ氏（インターンシップ中の大学生）

ユルゲン氏（劇団員，建築を学ぶ大学生）

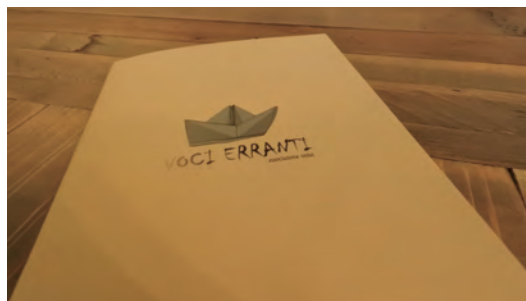


写真2 劇団のノートブック

1. グラツィア氏のソーシャルな活動

グラツィア氏は劇団『VOCI ERRANTI』^{注1)}の主宰者である。彼女と彼女が代表を務める団体は、クーネオのサヴィリアーノ^{注3)}を拠点に、①刑務所の囚人の社会復帰に向けた就労移行支援カフェと、②サルツォ刑務所での演劇による更生プログラムを行っている（写真2）。

2. 就労移行支援カフェ，インテルバッコ

注1) 劇団名『VOCI ERRANTI』の由来

グラツィア氏は刑務所で20年近く囚人との演劇をしているが、それ以前は精神病院^{注2)}の精神患者と一緒に演劇をしていた。精神患者との一番最初の演劇で、主人公が母親に書いた手紙を折り船にして海に流す重要な場面があった。それは彷徨える船であり、そこから劇団名を「VOCI ERRANTI（彷徨える声）」と名乗るようになった。ボーチは「ボイス」、エランチは「彷徨える」の意味と「エラーを犯す」の意味がある。「間違いを犯した声」とは刑務所の囚人にも当てはまり、劇団の名前としたという。

注2) 1978年にバザーリア法が成立し、精神病院を原則廃止して地域の精神保健サービスを充実させることで精神障害者が地域で生活できるようにした¹⁾。

注3) 地域性（グラツィア氏へのヒアリングより）
 クーネオのサヴィリアーノは農業地域。山々に囲まれ、山の向こう側にあるフランス領からの侵略を受

け戦ってきた土地である。またトリノと近く、強力な王がいた都市の機関だった歴史もある。「クーネオの出身」は良い意味でなく、愚か者に近い表現で使われる。都会にコンプレックスがあり卑下する人たちがいるが、有名な文学者パヴェーゼや重要な知識人を輩出している土地でもある。

注4) サヴィリアーノ 市が建物のオーナーである。

注5) グラツィア氏がサヴィリアーノで暮らしている縁もあり、演劇などで関係している囚人たちの社会復帰を目指したカフェを始めた。精神病患者と演劇をしていた20年前には将来こうしてカフェを開くことになると思わなかったという。

注6) 刑務所での刑期が残り3分の1となった段階で、監事が許可すれば外で仕事ができる。毎日門限までには戻らなければならないが、外で仕事をしたり別の形で刑期を過ごすことが可能である。

1) カフェの概要

■カフェ開設の経緯と現状

社会復帰に向けた就労移行支援カフェ、カフェ・インテルバッコ Caffè Intervallo に冠された Intervallo は「幕間」の意味で、芝居の幕間に来る場所という趣旨で名付けられた。

このカフェは、サヴィリアーノ Savigliano 市（ピエモンテ州クーネオ県）の中心部に建つ劇場の隣に立地する（図1，コラム6）。使用している建物は、以前は隣接する劇場の管理人宅だったが、空き家となりサヴィリアーノ市でも活用に困っていた^{注4)}（写真3，4）。そこへソーシャルなカフェをしたいとグラツィア氏の劇団が要望し^{注5)}，許可を得た。刑務所外で仕事ができる段階の囚人の就労移行支援として、現在は3名の囚人が働いている^{注6)}。小さなカフェは経営が困難で、周囲からの反対もあったがボランティアにも支えられながら運営しているという。

■就労移行支援の意義

このカフェでは、囚人だけでなく精神疾患や麻薬の過去など、社会的に困難を抱えた人たちが働いている。刑務所での演劇プログラムを通して人間として回復する囚



写真3 劇場（左）に隣接するカフェ（右）



写真4 カフェの2階席

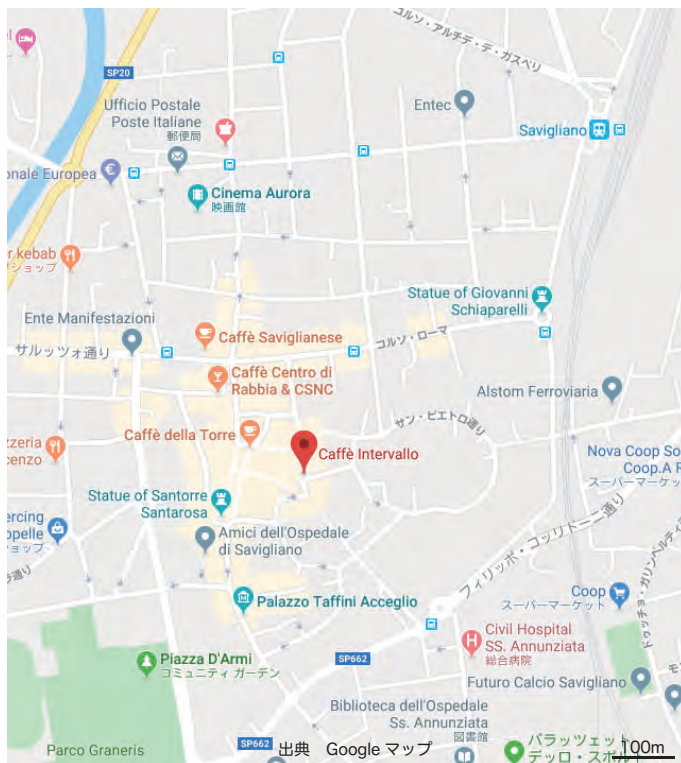


図1 カフェインテルバッコの立地

人もいるが、そうした人々でも出所後に仕事がなく社会復帰できないのが一番の問題である。仕事はもう一度その人に尊厳を与え、その人の一番良い面を引き出す^{注7)}が、同時に脆い面も引き出してしまうため、見守る必要があるという。就労移行支援の場を通して、社会復帰のためのステップを見守りのもとで着実に踏めることが重要である。

■食事について

シェフのマッテオ氏の食事は、地産地消の伝統的な料理をベース^{注8)}にしている。食材の余りを出さないことを信念^{注9)}にしておき、ありとあらゆるものを使うため毎日メニューが異なる。イタリア料理をベースとしながら、様々な国や地方出身の囚人の影響を受けた多国籍な創作料理でもある。

またカフェでは刑務所内の囚人たちがつくったビスケットも食べられる^{注8)}。

2) カフェでの人間関係

■従業員の業務について

精神的な問題があり、情緒が不安定で来られなくなる従業員がいるため、誰がどの業務を担当すること^{注10)}になっても対応できるように訓練している。普通のカフェであれば、出勤してこない従業員は解雇だが、ここでは継続的に給料を払い、生活を支援している。しかし代替りの従業員を雇う必要があり、カフェの経営の観点からは大変である。

■従業員同士の関係について

カフェには様々な国や地方からの囚人がおり、文化的な背景や犯罪の世界が異なる。囚人たちはお互いを認め合えず、人間関係を保つのが容易でないが、女性従業員がいると男性囚人同士の関係性が緩和されるという^{注7)}。

■来客者や周辺住民への周知と理解

周辺住民にもカフェの従業員が囚人だと周知し、来客者にはウェイトのミスを目にみてもらっている。カフェプロジェクトを開始する際にサヴィリアーノ中の市民団体へ説明に回り、3分の1の団体からは評価され、

注7) 刑務所には仁義があり、女性へのリスペクトが高いと言う。

注8) サルッツォ刑務所内にはパン工房があり、4人の囚人と1人のスタッフでパンづくりをしている。焼き担当、ケーキづくり担当、会計担当と役割分担がされている。刑務所で必要な設備を整備しているが最低限の機械しかなく大変だと言う。カフェインテルパッコ以外にもパンを出荷して経営を立て、刑務所内の囚人たちも買いに来る。ある囚人からは「一日が何もなくて流れていく中、こうした仕事をもらえるのはありがたい」との意見がある一方で、別の囚人からは「郵便の小包のように移送された」との発言があった。これは「ものではなく一人の人間として扱って欲しい」という囚人の声ではないだろうか。



写真5 シェフのマッテオ氏



写真6 イタリアの伝統的な料理の昼食



写真7 刑務所内でつくられたビスケット

3分の2の団体からは子どもや障害者、高齢者でなく囚人への支援に違和感があると距離を置かれたという。この地区は極右政党支持者が多い影響もあるが、これらの人たちにも理解してもらえるように日々活動している。その一環で様々なテーマの食事会や、哲学のお茶会などの文化的な会も催し、地域を引き込む場をつくっている。

3) 今後の課題

これまではサルツツオ刑務所の囚人が働きに来ていたが、2019年10月からサルツツオ刑務所がマフィア囚人専用となり、今後は刑務所外で働ける人がいなくなる。そこでクーネオの刑務所へ行き、新しい演劇ラボを開き、道程を踏んでくれた囚人に来てもらおうと考えている。またプサノというカフェに最も近い小さな刑務所からのオファーがある。カフェを初めてまだ2年で、他の団体との連携はこれからのテーマである。

3. サルツツオ刑務所での演劇による更生プログラム

1) 演劇ラボ開設の経緯

サルツツオ刑務所でグラツィア氏が演劇を始めたのは20年ほど前である。精神病患者との演劇を観た当時の所長からオファーがあったのがきっかけである。刑務所での演劇は簡単ではなく、微妙なバランスの中にあり、失敗もあり得るが刑務所でやるからこそ面白いという。

2) 演劇プログラムの概要

参加者 約20名（刑務所の囚人数は400名ほど）

開催時期 年中

参加の流れ 新規でいつでも参加でき、希望者は所長に申し出てエディケーター^{注9)}との面接を受ける。グラツィア氏が採否を決めるが、芝居がうまいと言う囚人よりも恥しがり屋という囚人の方が面白い対象だという。前述の通りここはマフィア囚人専用の刑務所とな

注9) ここでのエディケーターは日本の臨床心理士のような職能と推測する。グラツィア氏によるとエディケーターには人文系または医学系の学部で学ぶ2種類の職能があるという。未成年の囚人（少年院）をどこに送るか、釈放してもよいかなどは医学系の学部を出たエディケーターの判断を基本とする。判事が判断を下すための報告書を作成する重要な役割も担うという。

り、新しくメンバーが加わるなど入れ替わりがあった。

レッスン回数 一年中、週2回毎回2時間のレッスンを行い、本格的に芝居の稽古を開始するシーズン最後の1ヶ月半はレッスン数回が頻繁になる。

レッスン内容 日々のレッスンではまず身体面を鍛え、自分の声を発見し、言葉のレッスンをする。言葉の意味を大切にしている。最後に囚人を観察する中で素材を得て、全員で芝居を作り上げる。

演劇の舞台 9月末に刑務所で4日間の舞台を開き、延1,000人ほどの観客が集まる。10～12月には学生や教師が1,600人ほどが観に来る。その後、特別に月1回で刑務所外にも護送警官なし^{注10)}で芝居へ行き、一年の間に5,000人ほどの観客を動員する^{注11)}。2007年に演劇ラボの20名がローマに遠征した際には8日間にわたり他の刑務所に泊まりながら大きな劇場で2日間の舞台を開いた。これはイタリアの5か所の刑務所から有名な囚人演劇が集まった歴史的な出来事である。

3) 刑務所での演劇の意義と課題

■演劇プログラムの位置づけ

イタリアの刑務所は更生機関^{注12)}だが課題が多く、囚人の人道的な扱いが十分にされていない。再犯率が67%でヨーロッパの中で最も高くヨーロッパの高等裁判所から罰金を課せられている。法務省の統計では刑務所で演劇をする囚人の再犯率が6%程度で、刑務所外に労働へ出た囚人の再犯率[15～16%程度]よりも低く、刑務所内での演劇に意義や効果があると言える。しかし国から刑務所内の演劇ラボへの補助はない。イタリア政治で極右政党が出てきた時期(2004年)の法務大臣が、囚人たちは人間としてリハビリを受けて社会に戻る必要はないと公表し、刑務所を懲罰機関とした。こうした中、サルツォ刑務所では当時の所長が地域の財団から資金を集めて演劇を続けられるようにしたという。

■演劇する囚人の再犯率が低い理由

演劇は自分自身が誰かを問い、深く自分を見つめるきっかけとなり、考えることを教える。大半の犯罪者が十分な教育を受けず、お金の世界で生きてきたために**そもそも犯罪がなぜ悪いことか、を理解できていないことがし**

注10) 私服警官が少し離れた場所から同行するが、護送警官なしで自由な感覚で外に出られるのはサルツォ刑務所だけという。

注11) 演劇を待ち望んでいるファンからの問合せがあったり、劇団の若いメンバーがSNSで演劇の情報発信をしたり、地域の新聞がニュースを流してくれたりして宣伝される。チケットは一般10€・学生8€で、多くの人に観てもらえるように安い値段設定としている。

注12) イタリア憲法第27条では刑罰の目的を更生と規定している。バザーリア改革をモデルとして、司法、福祉、医療の縦割り行政の弊害を排し、ソーシャルワークを基盤に官民がネットワークを組み犯罪者への自立支援を行うことを基本としている¹⁾。

ばしばある。そうした人々は、自分自身についても理解していない。演劇では立ち止まって芝居の中身や役を考えざるをえない。このため、演劇を通して、囚人たちは自分が何者かを認識し、そしてそれによって初めて他人の心情や他者という存在がわかるようになる。

この自己理解と他者理解のプロセスを経て、犯罪が悪いことだと理解できるようになるが、これは囚人たちにとっては精神的に大変な工程であり、シーズン始めに集まった囚人の3分の1が途中で辞める。囚人たちの多くは嘘をつき続けてきた人たちであり、刑務所で弱みを見せると他の囚人からやられてしまうため鎧のような仮面をつけて自分を守るが、演劇では鎧をとり払い自由に感情を感じられる。

グラツィア氏は18年間刑務所で演劇をしてきた。このうち、真剣に向き合ってくれた人たちとは今でもよい関係を築いており、犯罪に戻る人がほとんどいないという。感動をし、人に喜んでもらい、人生が素晴らしいことを知ると、犯罪を犯すことでそれが失われることが分かる。

表1 囚人へのヒアリング結果

演劇の意義	A氏	恥ずかしがり屋だったが、自分の限界を超えることができた。助けられた。
	B氏	刑務所にいる時間を忘れられる。
	C氏	演劇は自分に満足感を与えてくれる。
	D氏	仲間と一緒に何かをする、共有すること。
	E氏	自分でも知らない自分を発見できる。
	F氏	自由を感じることができる、感情を感じることができる。
	G氏	シチリア人で2年前から演劇をしているが、よい体験ができています。
	H氏	生涯、隠れて人と向き合えなかった。演劇で人前にできるようになり人と向き合えるようになり気持ちがいい。
	I氏	20年刑務所にいるが他の刑務所ではこうした機会がなかった。好きな演劇ができてうれしい。
	J氏	最初は好奇心から初めて、今では好きになった。良い結果となった。
	K氏	好奇心から始めた。恥ずかしがり屋で難しいが頑張っている。
	L氏	20歳で捕まり40歳以上になった。演劇のおかげで生きることが発見した。檻の中で旅をする。色々な国の人と出会う。色々な想像ができる。空想の旅ができる。
グラツィア氏の印象	E氏 K氏 L氏	まだよく知らないが闘志あふれる人で一緒にやってほしい。チャンスをありがとう。 (*グラツィア氏はまだこのグループと仕事をしておらず、なくなったグループと仕事をしていた。)
演じてみたい役	F氏 I氏	ラストサムライ!
	L氏	ナポリの偉大な俳優エドワードのような芝居。
自身の変化を感じる瞬間	F氏 G氏	たくさんの方がきて、劇を終えた瞬間。
	L氏	自分の限界に挑戦して、大変だけどそれがあると生きていると感じられる。

■囚人同士の関係性

刑務所の中では犯罪の種類により相性がある。殺人犯は詐欺師を受け付けない、強盗犯は殺人犯を受け入れない、殺人犯は麻薬を受け入れないなどの関係性で、一緒に仕事をさせるのが大変である。しかしそこに演劇での「play = 遊び」の要素が入ると、ももとの殺人犯や葉の売人などの役割から開放されるため、一緒に活動することができる。

■守衛警官との関係性

囚人と警官は囚われている者と捕えている者の関係で、お互いが同じ席につくことはない。この事態が起きることはベルリンの壁が崩壊するほどの衝撃的な事件で^{注13)}、囚われている者と捕らえている者のバリアがなくなることの意味する。サルッツオ刑務所では演劇を始めて18年でこのバリアを無くすことができたが、それでもすべての警官に理解してもらえているわけではないという^{注14)}。

■グラツィア氏のこれからの夢

スペインとフランスから公演オファーがあり、可能なら行きたいという。また刑務所が演劇の学校になるとよいと考えている。舞台づくりを学ぶ、照明を学ぶ、そうした場所をつくりたいという。

注13) 訪問したサルッツオ刑務所内では囚人たちと輪になり座りヒアリングをしたが、警官のパウロ氏もグラツィア氏の隣と一緒に輪となり座った。警官が囚人と同じ席に座ることは絶対がないという。またパウロ氏はヒアリングの最中に退席し、ヒアリング終盤には部屋の中に守衛警官が1人もいない状況であった。

注14) グラツィア氏は刑務所での演劇が大切だと言っているが、本当に一番大切なのは守衛警官だという。18年を経て隊長以下の皆に理解され、来客、囚人、支援をしてくれる人たちにとってよい活動だと思ってもらえるようになったという^{注15)}。

注15) パウロ氏のコメント

演劇を始めたときは理解ができなかった。刑務所は懲罰の場所で楽しむ場所ではない。しかし初めて舞台を観てとき、囚人たちの演技がすばらしく、同時に腹が立った。囚人がこんなに良い舞台をしてよいのか、またここは軍隊的な場所でもあり演劇で秩序が侵されるのが困ると思った。

1) 浜井浩一『罪を犯した人を排除しないイタリアの挑戦』、現代人文社、2013.01

視察を終えての私見

グラツィア氏による刑務所での演劇とカフェでの就労移行支援による、社会から切り離された囚人の更生と社会との接点の再構築は示唆深い活動であった。囚人たちに演劇の意義を尋ねる(表1)と自己成長や感謝、やりがいの言葉が聞かれ、演劇を通して自分自身と向き合い、他者を理解するなど、価値観や人生観に影響している様子が伺えた。演劇を通して人としての根幹を再生した上で、仕事という社会との接点をつくること、刑務所への出戻りなく、その後の人生を立て直す、本当の意味での社会復帰につながるのだろうと感じた。

また終身刑の囚人にとっても自身の罪を改めて見つめ直し、罪を受け入れ、償うことにつながるのではないか。

日本の縦割り行政では司法と福祉の連携が困難で受刑者の更生や社会復帰支援には課題があるが^{文1)}、イタリアの刑務所でのソーシャルな活動は日本の刑務所の場のあり方や受刑者の更生について再考する際の一知見になると考える。

(古賀政好)

◆ コラム5 サルッツォの旧市街地，旧要塞，教会

写真8の周辺は，サルッツォ一番の旧市街地である。

市内に残された旧要塞（La Castiglia，写真9，10）はこれまで刑務所として使われていた。家族にとってはこの場所の方が今のサルッツォ刑務所よりも訪れやすく，囚人は要塞の窓から顔を出



写真8 旧市街地の街並み



写真10 旧要塞の中庭



写真12 教会（Church of St. John）内部

して家族と話をしていた。現在は，レストラン（写真11）等で使われている。

教会（Church of St. John，写真12）は13～14世紀のピエモンテのゴシックより前の建物で，一部をホテルやカフェ，講堂に改修している。聖十字軍がキリストの布の一部を持ってきた歴史があり，表には見せずに隠していた。また教会にはこの地域のボスを決める部屋があり（写真13），裁判もここで行われていた。この部屋にある太陽



写真9 旧要塞（La Castiglia）の外観

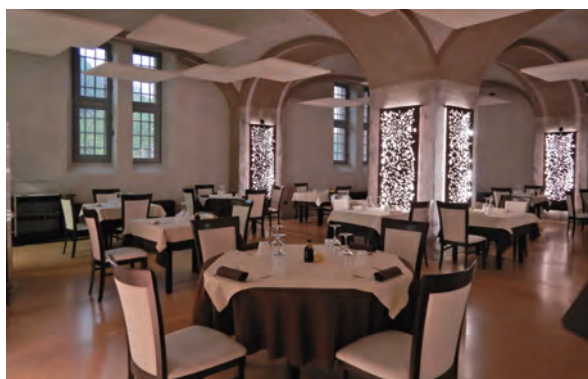


写真11 旧要塞内のレストラン



写真13 地域の教会のボスを決める部屋，裁判の部屋

の壁画は民衆の信仰のシンボルを意味するが、なぜこの場所にあるかについては研究者でも意見が分かれているという。

この地域には、こうした様々な文化遺産があるが、地元住民による保護が行われずに、観光資源としての活用ができていない。



写真 14 教会内の一部を改修してつくられたホテル

◆ コラム6 サヴィリアーノの劇場

カフェインテルバッロに隣接する劇場では、サヴィリアーノが1年のプログラムを組み、毎日使われている。

この劇場ができる前は、この場所にはもともとは重病人のための病院があった。それが普通の病院として使われることとなり、その後、1832年

に市民から劇場を欲しいとのニーズで市民が自分たちでお金を出してこの劇場が建てられた。

劇場ができたことで、この土地が文化的に特殊な場所となった。ヨーロッパ中で活躍している地元出身の音楽姉妹がいるが、彼女たちもここで育った。

この劇場は第二次世界大戦で爆撃されて天井が抜けてしまったため、1950年代初頭に解体して



写真 15 劇場（Teatro Milanollo）の外観



写真 17 劇場ホール



写真 19 天井の絵画、シャンデリア



写真 20 ホワイエ

新しい劇場を建てる動きがあった。しかし取り壊す前に関係者でもう一度この劇場を訪れて皆意見を変えた。この劇場は大事な場所であると改めて

認識されるに至り、解体せずに改修して利用されることになった。



写真 18 舞台の幕



写真 21 囚人がつくったコートかけ



写真 16 集合写真

地域に欠けていた「こどものための場所」を空き建物の転用でつくる

【キーワード】

〔施設種別〕 高齢者施設 障がい者施設 子ども施設 住宅（住宅型ホテル） 地区の家、他
 〔運営主体〕 市区町村 法人 NPO 個人 社会的協同組合
 〔建物形式〕 1棟単体型 複数棟集合型 団地型 集落
 〔建物状況〕 新築 増築 改修 一部改修 既存
 〔対象者〕 高齢者 障がい者 子ども ファミリー 多世代 移民



地区の家の外観

最寄り駅から坂道を上り徒歩10分ほどの距離に Casa Gavoglio Civico 41 がある。2015年に開設し、現在は主に建物の一部とその前の広場を運営・管理している。主な活動は平日午後子ども向けに広場と図書室を開くことであり、9つのアソシエーションが協力しあっている。元々軍用地がジェノヴァ市に払い下げられ、その跡地利用を考えることから始まった。

視察月日 11月8日

記録担当者 松原茂樹、古賀誉章

案内者 GUIDO BAGNI 氏 (地区の家を運営するアソシエーション連合の代表)
多木陽介氏 (通訳)

1. ジェノヴァの概要

ジェノヴァは、リグリア海に面した港湾都市で、リグリア州の州都、かつジェノヴァ県の県都である。

中世には海洋都市国家ジェノヴァ共和国として栄え、ローマ時代から海運業や軍港として発展してきた軍事力も背景に、永く通商・金融業の中心地として栄えた。現代ではミラノ、トリノなどの北イタリアの工業地域と海運の結節点の役割を担い、ジェノヴァ港はイタリア最大の貿易港である。

新港を中心に都市開発が進んだ結果、旧港を中心とした旧市街において、街路や街区などの整備が取り残され治安が悪化するなどの課題が生じた。1990年代からは、都市内部再開発事業に取り組み、港湾都市としての歴史や景観を活かしたまちづくりや観光誘致が行われている。



図1 Lagaccio 地区広域図

地形的な特徴として、海に向かって山が迫る天然の港であった地形で、平坦な土地が少なく坂道が多い。

2. ジェノヴァ市における地区の家の運営方針

ジェノヴァ市は他の都市と異なる方法でアソシエーションによる地区の家の運営を認めている。その条件は、ジェノヴァ市の市議員のうち地区の担当者とアソシエーションが協力することと、活動の拠点となる建物があることである。

2019年現在、市議員が参加している正式な地区の家はジェノヴァ市で3箇所ある。それ以外にも、市議員が参加していないが他都市と同様の取り組みをしていると判断できる「地区の家」が3箇所ある。いずれも市が中心になって始めたプロジェクトではなく、市民運動によって立ち上がり、あくまで市民のアソシエーションが中心になって管理・運営している。

3. 地区の家 Casa Gavoglio Civico 41

1) 立地の特徴

Casa Gavoglio Civico 41の広域図及び周辺の様子を、図1・2に示す(写真2～4)。

Casa Gavoglio Civico 41は谷間につくられた元軍用地を転用してつくられた。谷間は上空から目立ちにくく、爆撃を受けても被害が広がらないためである。この敷地は、傾斜鉄道が走るバーリ通りの東に位置し、谷沿いのレガッチョ Lagaccio 通りに面し、周囲を中高層の集合住宅に囲まれている。

この地区の家があるLagaccio地区は旧港の北側、旧市街地の北西に位置している。ここは人口が密集している地区であり、公園や広場といった子どもの遊び場がこれまで存在してなかった。ジェノヴァ市は他都市に比べ高齢化率は高く、出生率は低い¹⁾が、Lagaccio地区は市内



写真2 地区の立地(駅からの遠景)

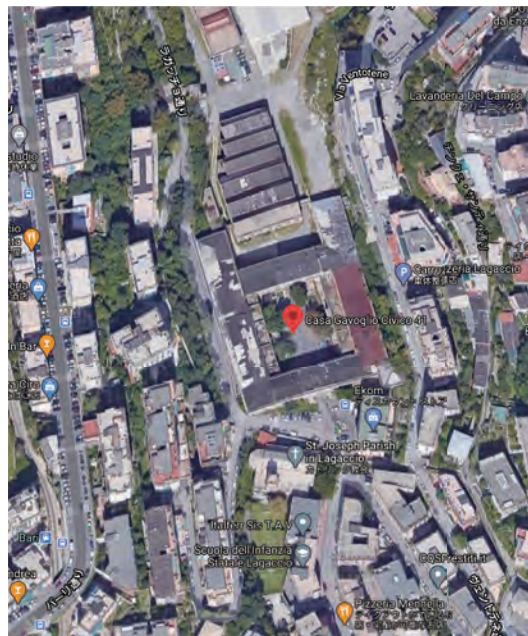


図2 Casa Gavoglio Civico 41 敷地周辺の様子



写真3 尾根に建つ集合住宅

注 1) <https://www.facebook.com/casagavogliocivico41/>

では出生率が比較的高い。また傾斜鉄道の駅から歩いて近いが、この地区全体は低所得者層にあたる住民が多く、ジェノヴァ市内では文化的レベルが低いと目されている。

2) 地区の家の誕生

軍用地が市に払い下げられ、その利活用について地区の住民たちはインフォーマルに議論してきた。そのなかで、この地区で育った大人自身も子どものときに公園で遊んだ経験がないという問題意識が共有され、子どものための遊び場をつくろうということで住民たちの間で意見がまとまった。市の入札に応じたグループのうち、ジェノヴァ全体での発展を考え、俯瞰的にこの土地の利活用を考えるグループもあったが、より生活に根ざした内容であった、本グループの提案が採択された。

本グループは9つのアソシエーションで構成され、それらが協力し合って地区の家を運営・管理することとなり、2015年から活動している。なお、今後3つほどアソシエーションが地区の家の活動に参加する予定がある。

Casa Gavoglio Civico 41 の facebook には、「設立の宣言」が掲載されている（表1）^{注1)}。そこには多様性 (inclusione delle diversità)、寛容 (tolleranza)、社会参加 (partecipazione)、社会正義 (giustizia social)、行動の機会均等 (pari opportunità nelle azioni)、非暴力 (non violenza) の価値観が示され、さらにこれに続く文章で住民の参加を呼びかけている。これらの価値観は今回のイ



写真4 道路からの外観・アクセスゲート

表1 Casa Gavoglio Civico 41 の設立主旨

Casa Gavoglio Civico 41 è una rete di associazioni nata nel 2015 per partecipare al bando per la gestione della “Casa di Quartiere del Lagaccio”, in collaborazione con il Municipio Centro Est, per tenere aperto lo spazio interno ed esterno disponibile e per organizzare iniziative culturali e sociali per tutti.

Le associazioni si riconoscono nei seguenti valori: inclusione delle diversità, tolleranza, partecipazione, giustizia sociale, pari opportunità nelle azioni, non violenza, antifascismo, laicità. Si può partecipare alla Casa di quartiere in molti modi:

Casa Gavoglio Civico 41 (ガヴォリオ市民の家41)は、タウンホールセンター東と共同で「ラガッチョ地区の家 Casa di Quartiere del Lagaccio」の管理のための提案募集に参加し、内外の空間を利用可能な状態に保ち、すべての人のために文化的・社会的な取り組みを組織するために、2015年に設立された団体のネットワークです。

私たちの協会は、以下の価値観を持っています：多様性の包含、寛容、参加、社会正義、行動の機会均等、非暴力、反ファシズム、世俗主義。



写真5 広場の全景，背後の建物の一部が地区の家



写真6 広場の子どもの遊具



写真7 看板の奥が図書室入り口，写真右側に工房の入り口



写真8 図書室内観

タリア調査における訪問先に共通する点であり，日本でも今後これらの価値観を共有し，それらに取り組む必要があるだろう。

現在運営・管理されている部分は通りに近い広場とそれに面する建物の一部だけであり（写真5～7），山側にはさらに広大な敷地が存在している。この未利用部分は，今後3年ぐらいかけて，市が公園として整備することになった。

3) 地区の家の活動

■建物利用条件と室の構成

上述の通り，ジェノヴァ市の地区の家は市議員の参画が条件である。すなわち市と連携ができていることもあり，家賃や光熱水費は無料である。

旧軍施設のうち，地区の家で現在使用している室は2室である（写真4, 5）。このうち1室は図書室として（写真8～10），もう1室は工房として使用されている（写真11・12）。いずれも部屋の大きさは13m×5.5mほどである。

また，口の字型の建物に囲まれた中庭部分，地区の家として使用している室の前にある広場には，子ども用の遊具が設置されており，屋外の遊び場になっている（写真6）。

■アソシエーションでの分担

この地区の家の管理に参加している9つのアソシエーションは，それぞれ取り組んでいる活動が異なる。このうち半分以上が子どもの活動を支援している。これらの団体は，放課後の復習を指導する団体，幼児を対象に本の読みかせをする団体，年に何回かハロウィンや子どもオリンピックなど子どものイベントを行う団体など，それぞれの活動内容を分担している。また，子ども以外には，高齢者の余暇活動を支援する団体もある。

今回インタビューした地区の家の代表をしているGUIDO BAGNI氏は，子どもの読み聞かせのアソシエーションに所属して活動しているが，本業は整骨院を営んでいる。このように，本業を抱えつつアソシエーションでの活動に参加している人もいる。

■主な活動

この地区の家での主な活動は平日の午後に子ども向けに広場の開放と図書室を開くことで、主に図書室で本に関するイベントや話し合いなどの活動を行っている。この活動は、アソシエーションが協力しあっている。最近では、あるアソシエーションが責任を持って土日にも解放する時がある。

隣接する工房はまだ整備途中であるが、ここでは修理やリサイクル、子どものおもちゃをつくる活動などを行っている。特に修理の活動では、自分の家で工具がない人たちがイスなどを持ち込んで修理をしたり、自分でできない場合はだれかにお金を払って修理をしてもらっている。地区の家としてはこうした工具の準備や場の提供を行っている。

■具体的な活動内容

11月～12月中旬までの活動内容をfacebookより拾い上げる(表2)。

通常の活動として図書室の開館の告知以外にも少年・少女たち(写真から小学生の中高年と判断)の広場での清掃の後、将来の公園構想の計画図を見ながら話し合いを行った(11/6)こと(写真13)、クリスマスツリーなどの製作のこと(12/9)が報告されている。

特別な活動として、ハロウィンパーティーの報告(写真14)や、運営・管理に参加しているアソシエーションの主権による幼児や小学生を対象とした読書のワークショップ(11/2, 12/11)が行われている。

このように9つのアソシエーションが通常の活動として管理を行う以外に、それぞれのアソシエーションの専門性を発揮した活動が行われていることがわかる。

また将来払い下げられた軍用地全体が公園として整備されることにまとまったが、その具体的な内容についてはこれから決めていく段階である。今後の展開については、11/6の活動報告のように日常的にインフォーマルな場で子どもたちと将来の公園のあり方について話し合いの機会を設けている点に注目すべきだろう。フォーマルな場ではなくインフォーマルな場でも話し合いが行われている様子からは、一つのプロジェクトを市民参加で進めていくプロセスが市民に通底していることが理解できる。



写真9 図書室の乳幼児コーナー



写真10 図書室の机コーナー



写真11 修理工房

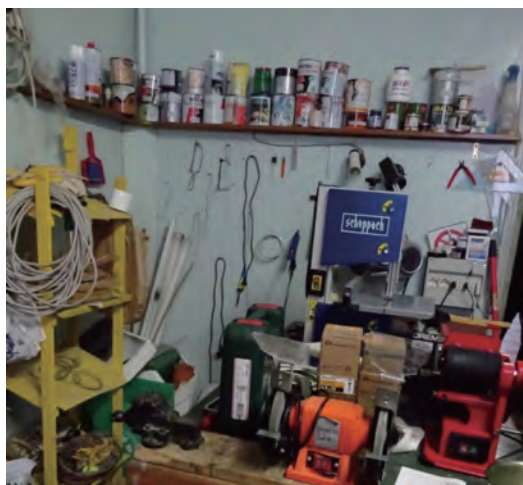


写真12 修理工房の工具類

表2 209年11月1日~12月15日のfacebook掲載内容

11/1	ハロウィンパーティーの報告 Casa Gavoglioween! Pomeriggio e sera con i bimbi assieme a Zetati/TDN, Capra Azzurra e serata con Lingua Madre! Dolcetto o Scherzetto? Per ora castagne!!!
11/2	11/9のイベント案内 il workshop dell'8 mattina è sold out! ancora tanti posti disponibili per il pomeriggio dalle 15 alle 18,30, per il seminario con Giovanna Zoboli, Barbara Schiaffino, Yuri Pertichini, Angela Maltoni, Gigliola Vicenzo. Parleremo di povertà educativa, lettura e resilienza. Vi aspettiamo alla Biblioteca Internazionale per ragazzi E. De amicis, dove parleremo anche della biblioteca di quartiere di Casa Gavoglio.
11/4	11/9のイベント案内 (主催者: Librotondo soc coop Genova, Casa Gavoglio Civico 41) hai un progetto attivo sulla promozione della lettura a Genova? ti fa piacere aderire a un patto di collaborazione sulla lettura bene comune, per condividere pratiche e idee? contattatami qui: lucytringali@gmail.com. Sabato 9 novembre alle 14 alla biblioteca De Amicis c'è il secondo incontro dedicato a chi vuole saperne di più. Anche se non potete esserci il 9, fatemi sapere chi è interessato, così posso inserirvi nell'indirizzario e organizzare il calendario degli appuntamenti. grazie, Lucia
11/6	少年たちと公園の清掃を行い、その後将来の公園構想についての話し合いの報告 I ragazzi e le ragazze della prima b della Duca degli abruzzi al lavoro per prendersi cura dello spazio verde della casa, con le educatrici del Progetto Codice, connessione di comunità educanti. Gli abbiamo raccontato anche del futuro parco urbano.
11/8	日本から来た研究者との話し合いの報告 In questo momento, il gruppo di ricerca sui Community Hub dei professori universitari dal Giappone, assieme all'architetto Valcalda. Tra poco la visita al cantiere del Parco.
11/14	臨時クローズの案内 (少し上の地区で地滑りが発生したため) Oggi per l'allerta arancione siamo chiusi. A presto e state al coperto se potete.
11/21	インフルエンザ予防接種の案内
11/26	図書室での遊びの報告 oggi pomeriggio abbiamo fatto piccole e grandi cose: raccolto tesori in giardino, giocato coi lego, provato a farci insegnare da un bimbo meraviglioso mezzo alfabeto in arabo (ma con la pronuncia siamo un disastro). Cose belle che ci piacciono
11/28	図書室の貸し出し時間の案内 Dalle 16 alle 18 biblioteca aperta per prestito libri e restituzione. Noi riordiniamo anche un po' e in genere dal riordino emergono sempre libri in regalo. Passate, ci sono libri, chiacchiere, una tazza di tè, il sole..
12/4	臨時クローズの案内 (強風のため)
12/5	ダンボールを使う小さなクリスマスツリー製作の案内 Iniziamo a costruire un piccolo albero di natale di cartone e ci leggiamo le storie d'inverno. Venite?
12/6	小さなクリスマスツリーを週明けの月曜日に製作することの案内 Albero di natale in costruzione senza bisogno di comprare niente. lunedì ci vediamo alle 16,40 per decorarlo coi disegni dei bambini.
12/9	本日午後、クリスマスツリーなどの製作の告知 Ci vediamo oggi pomeriggio alle 16,40 per decorare coi nostri disegni l'albero in cartone e ascoltare la storia magica di un fiocco di neve. Un albero ecologico, zeroacquisti e zeroplastica
12/9	家具の寄付のお願い stiamo cercando questi arredi in regalo per rendere più confortevole casa gavoglio e organizzare meglio gli incontri per bambini e famiglie. Li hai in casa e no
12/10	クリスマスツリーなどの製作の報告 Grandi e piccoli al lavoro per l'albero di natale più pazzo del mondo, zero acquisti, zero spreco. Moolto rilassante
12/10	12/28のイベント (廃棄物ゼロ・リサイクル活動) 案内 Vi aspettiamo alla casa del quartiere per un ricco programma di attività per bambini e adulti, tutto plastic free, zero spreco e all'insegna della condivisione, dello scambio di idee e del riuso/riciclo.
12/11	幼児や小学生の読書のワークショップの案内 (主催者: Librotondo soc coop Genova, Casa Gavoglio Civico 41) domani, giovedì 12 dicembre, tutta una giornata dedicata a bambini, famiglie e lettura. Al mattino dalle 11 alle 12,30 spazio piccoli 0-2 anni coi genitori con tisana, spazio morbido e angolo allattamento; al pomeriggio dalle 16,30 letture e laboratorio sul Natale; dalle 18,30 ci vediamo con chi ama leggere per consigliarci i libri più belli dell'anno, per bambini e grandi. Vi aspettiamo!
12/15	12/16 将来の公園構想に関する話し合いの案内 Hai a cuore l'ambiente? Vediamoci a Casa. Lunedì 16 alle 18,15 ci vediamo in Casa Gavoglio per l'appuntamento IL PARCO CHE VERRA'. Vi racconteremo come sarà il parco urbano nell'ex caserma e incontreremo alcune associazioni che si occupano di educazione ambientale. Aperitivo per tutti, rigorosamente plastic free
12/15	本日の活動内容 (子どもたちへの教育機会の提供) の報告 Le attività di Casa di Quartiere, quelle belle che vorremmo tutti i giorni. Una narrazione che ha coinvolto i bambini e gli educatori del centro Capra Azzurra di Lanza del Vasto, e un numeroso gruppo di famiglie di quelle che frequentano ogni giorno lo spazio, conclusa con una merenda condivisa e le pulizie fatte tutti insieme. Per accogliere bene i gruppi, i bambini e i loro genitori, mancano ancora un bel po' di arredi e giochi che stiamo provando a cercare in regalo, ma ogni giorno è sempre più accogliente.

■今後取り組みたい活動

周囲の学校を巻き込んだ教育・貧困に関するプロジェクトを補助金を獲得して行う計画がある。これは、子どもを支援するアソシエーションが多いこともあり、エディケーターと一緒に専門的な視点で子どもの様子を観察し、子どもたちの課題をチェックする作業を行い、教育・貧困の解決に向けた取り組みを行うというものである。

子どもと一緒に活動を行うことで親の参加を促すことができ、親ともつながることができる。また母親たちを対象とした子育て支援として、相談窓口を設ける以外にもインフォーマルにお茶を飲みながら話し合う活動も行う予定である。

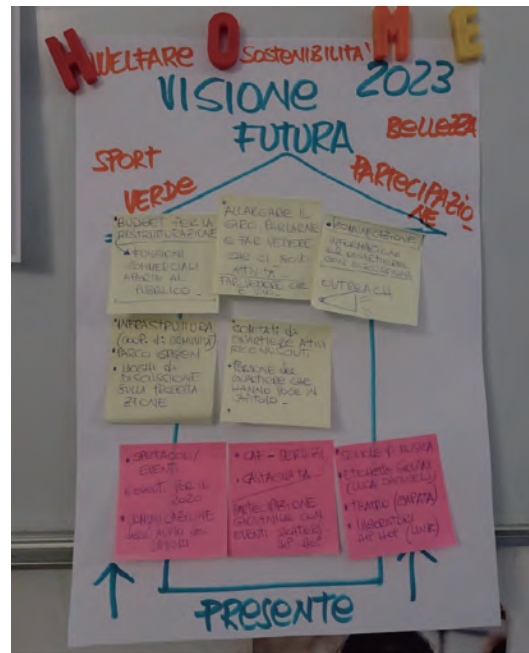


写真 13 掲示された公園構想の話し合いの成果（推定）



写真 14 町中に貼り付けられたハロウィンパーティーの告知

11 Piani per il Riutilizzo dell'ex Dipartimento della Marina Militare di Genova ジェノヴァ旧軍用施設再生計画

大規模な軍用施設跡地を利用した、治水事業と市民公園整備事業

【キーワード】

〔施設種別〕 □高齢者施設 □障がい者施設 □こども施設 □住宅（住宅型ホテル） ■地区の家、他
〔運営主体〕 ■市区町村 □法人 □NPO □個人 □社会的協同組合
〔建物形式〕 □1棟単体型 ■複数棟集合型 □団地型 □集落
〔建物状況〕 □新築 □増築 ■改修 □一部改修 □既存
〔対象者〕 □高齢者 □障がい者 ■子ども ■ファミリー □多世代 □移民



写真1 海岸側からみた、切り立つ斜面地に張り付く高層密集住宅群

ラガッチョ地区周辺には、地形に沿って斜面地に張り付くように高層密集住宅が建ち並ぶ。これらは戦後に建築された建物である。基本的に民間分譲又は賃貸物件で、公営住宅はない。主に高齢者でなくファミリー世帯が住んでいる。

視察月日 11月8日

記録担当者 西野辰哉, 齋尾直子

案内者 ロベルト・バルカータ氏（ジェノヴァ市治水担当責任者）

アレックスandro・モーラ氏（同市治水対策エンジニア）

多木陽介氏（通訳）



写真2 今回ご説明頂いた市の担当者

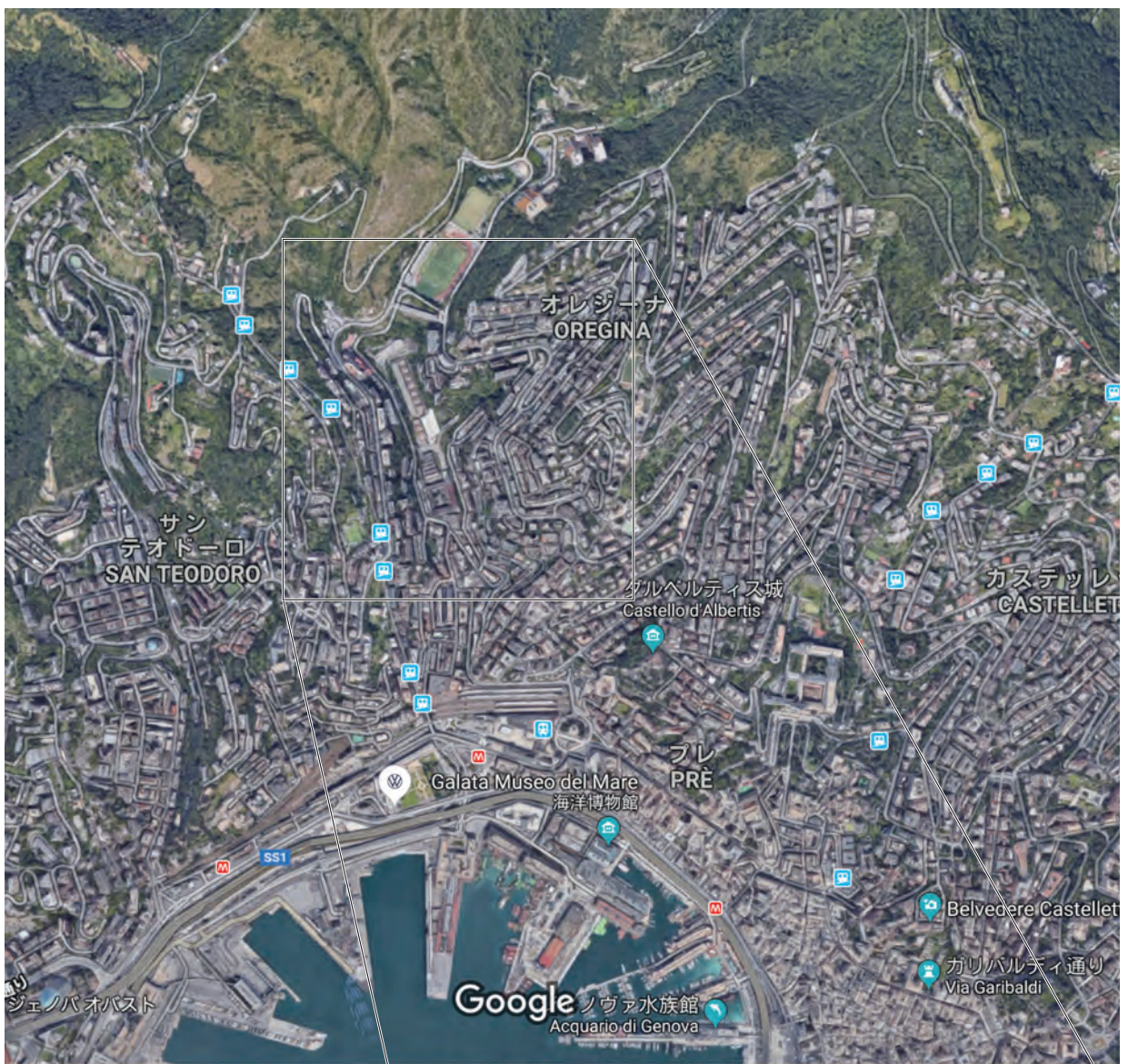
左：ジェノヴァ市治水担当責任者 ロベルト・バルカータ氏，右：同エンジニア アレックスandro・モーラ氏

1. ラガッチョ地区の特性

ラガッチョ Lagaccio 地区の人口は1万2千人で、同北東のオレジーナ Oregina 地区も同規模である。両地区の南側には海岸線が迫っており、旧港地区のある海岸から切り立つ斜面地に集合住宅がびっしり張り付く、地形的に特徴のあるエリアである。これらの地区の高層密集住宅街は戦後にできたもので、民間分譲又は賃貸物件である。また、この地域には公営住宅はなく、高齢化率も比較的安く、こうした集合住宅には主にファミリー世帯



写真2. 敷地周辺（南）



画像 ©2019 CNES / Airbus, Landsat / Copernicus, Maxar Technologies、地図

写真4 (上) ジェノヴァ市におけるラガッチョ地区の位置

ジェノヴァ・プリンチペ駅から北に斜面を上がっていくところにある。斜面が急なため生活用ケーブルカーもある。旧軍用地の上流には17世紀に皇太子が水遊びのために作った貯水用人工池があったため、この地区にはラガッチョという地区名がついた。

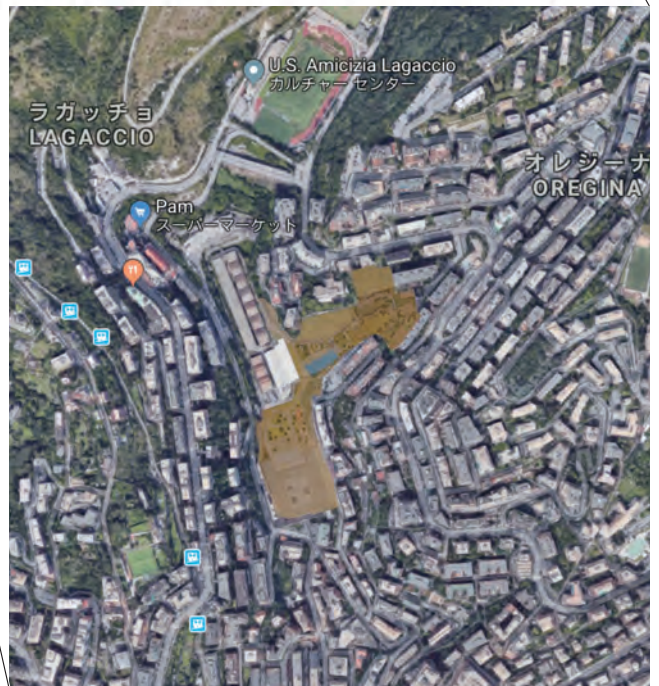


写真5 (右) 公園完成図を地図にコラージュしたもの
 対象敷地は右図の通り。敷地南端の中庭型の旧軍用建物は保存する。その奥の建物などを解体して公園とするが、現在でも軍が使用している工場（白い屋根、およびのこぎり屋根の建物）などは敷地外で触れられない。これらの間の地下に山側から水路が通っている。

が多く住んでいる（写真2～4）。

戦後すぐのスプロール的な開発の中で、これらの地域には駐車場はなく、道路は狭く、公園もない。「最低一家に一台車を置けるように」という制度ができたのは、この地域の開発が進んだ後の1960年代である。現在でも、建物以外に住民が使える場所は狭い道しかない。

この地域で段階的に使用が停止された旧軍用施設を活用した再生計画として、治水対策と公園整備が行われ、入口の建物を「地区の家」として活用することとなった（→p.118）（写真6）。この整備に伴い、数十年ぶりにこの地区に小さな子ども達が遊べる広場ができた、という状況である。本来、この地域は駐車場整備の要望があってもおかしくない状況であるが、それよりも「子どもが遊ぶ公園を作ってほしい」というのが住民の要望であった。他の地域に比べて低所得ではあるが、地区全体のことを考える人々であるとのことである。

2. 旧軍用施設の跡地

当該敷地は1642年から軍用地としての供用が始まり、砲弾を製作する軍事工場として使われていた。元々の敷地は、全体で約5万平米ある。イタリアでは2004年に徴兵制度が廃止されるなど、軍の合理化のための一連の改革が進んでおり、軍事施設の集約再編も行われている。関連してこれ以降、軍事施設跡地の民間活用が多数発生しており、この施設も20年以上空き施設であった場所の再生事例である。1998年法により、国有のままでは改修費用がまかなえないため、国有地を地方公共団体に無償または有償で譲渡できるようになり、その制度を活用している。

当該敷地は6,7年前にジェノヴァ市に無償譲渡され、全体を市民公園にする計画である。その条件が、「歴史的な外観をできるだけ残し、社会的用途に使うこと」であった。再生計画では、治水対策エリア（北西側）と公園整備エリア（東、南東側）に大きく分かれている（写真7～9）。現在も軍が使用している建物が敷地内にあるが、これらは再生計画エリアからは外れている（写真10）。なお、今回の調査時点では、治水対策エリアは既存建物の解体から始める、という段階であった。再生計画の概



写真6 敷地周辺（北東）

松の後ろにあるのが小学校。運動場のある小学校はほとんどない。真正面の建物1階（グレー部分）に幼稚園がある。入口の向こう側に幼稚園がもう一つある。

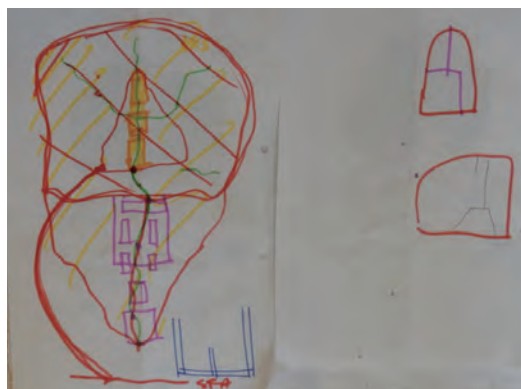


写真7 治水対策の概念図

左は地区全体の治水対策のイメージ。山や敷地北側のグラウンド（黄色に塗られた部分、US AMICIZIA LAGACCIO など）から地下を通る水路（緑色）が軍の建物の間をまっすぐ通り抜けて敷地（ピンク色）の地下を通過して南側の海に流れている。今回は敷地内の水路の更新がメイン工事となる。右はその敷地地下水路の断面イメージ。水路内に建物基礎柱があるため、水流が阻害されている。水路は大凡3m×3m。なお、左図で大雨時の増水対策として敷地北側のグラウンドから海へとつながる水路（赤色）を敷地から100m西側に敷設する予定であるが、これは別予算。

要は市の治水対策担当者からお話をうかがった。

3. 治水対策

旧軍用地の上流には、17世紀に皇太子の水遊びのため貯水用人工池があった。これを由来として、この地区にはラーゴ (Lago・湖) →ラガッチョ (Lagaccio) という地区名がついたという。現在も敷地地下には17世紀当時の水路が流れており、それが壊れないように整備する治水工事をおこなう。



写真8 エリア分け図

オレンジは国から無償譲渡されたエリア、赤はEUの資金も入って整備するエリア、白（主に法面）は必要に応じて私有地を買い上げたエリア。



写真9 公園整備計画図

公園エリアはかなり広いため、5つのパートに分けられている。1つ約1万平米ある。その全体をいろいろな要素をもった市民公園にする計画である。

この敷地は、谷筋で山からの水みちになっている。敷地後背部の山の斜面は、かつてはブドウの段々畑であり、人の手がいって里山だったが、近代にはいと放置状態となり、降雨時の治水管理が難しくなっている（写真11）。さらに、近年の気候変動の影響により、ジェノヴァ市においても集中豪雨と洪水がしょっちゅう起きるようになった。山側で降った雨水が街まで大量に流れ込まないようにするため、地下16mにトンネルを掘り水を流す（水位2mくらいになる）。古い地下トンネルは細いため、これは壊して、大きいトンネルに作り変える。現在は、公園になるエリアのみで工事が予定されている。米軍の流量規準（エクラス）で計算したが、実際の効果は不明である。



写真10 敷地北側の現行軍用施設

ももとの敷地内には現在でも海軍が使用している工場があり、これらには再生計画では触れられない。これらの間の地下に山側からの水路が通っており、再生計画の敷地地下にそのまま流れている。建物の間の奥に小さく見えるのがイタリア赤十字の建物で、その白壁のあたりまで、かつての人工池の水位があった。

4. 市民公園整備

公園整備については、敷地がかなり広いので、5つのパートに分けている（写真8）。各約1万平米。国から無償譲渡されたエリア、EUの資金を入れて整備するエリア、必要に応じて私有地を買い上げたエリア等がある。公園の具体的な計画として、例えば、治水プロジェクトの一部として灌漑等の特別な技術、歴史的な方法等を見せるエリアもある。地形を生かして完全バリアフリーの公園を作るのが目標である。実際は高低差がかなりあるため、車椅子で登れるように工夫したいが、難しい部分もある（写真12）。

ジェノヴァ市では地下を掘り返す際、必ず考古学者と共同で作業しなければならない。何か埋蔵物が出てくると作業は止まる。この敷地も、かつて全面的に軍事施設であった時には調査をおこなうことができなかったが、市の所有になったので手を加えられるようになった。南側の、保存する中庭型建物から入って正面のRCとレンガの建物は解体する予定である（写真13）。解体すると3,500 m³ほどの瓦礫が出ると試算されている。床面舗装は、調査の結果、歴史的価値があると認められたため、保存する予定である。また、地質調査については、砲弾が地面に埋まっている可能性があり非常に難しい。来週から調査開始予定である。

治水担当部局の仕事は既存建物の取壊しと地下トンネ



写真11 敷地奥の山の斜面

山頂の建物あたりにかつてジェノヴァを囲む城壁があり、その内側法面は侵入した敵が隠れないように全ての木が取り払われていた。



写真12 取り壊し予定の建物と敷地東側をみる

かなり勾配があるため、完全なバリアフリーは難しい。



写真 13 保存建物（左）と解体建物（右）
 左が中庭のある（地区の家が入っている）保存建物。右が解体予定の建物。正面に敷設された舗装は歴史的価値が認められるため保存指定。



写真 14 敷地内から西側周辺をみる
 手前に保存する軍用工場。奥に高密度な集合住宅が迫る。



写真 15 敷地内から東側周辺をみる
 敷地とのレベル差が大きく、擁壁が一部くずれている状態。

ルの完成である。公園全体の完成年度や工期は、様々な要因により流動的である。しかし、一部補助金を得ている EU ルールでは 2 年で完成という条件があり、残り約 1 年となった。既に施工会社は決まっている。この事業については、Unilove(ウナラブ)という EU 補助金(HORIZEN2020 の一部)で総額 120 万ユーロ(約 1.5 億円)に加えて、ジェノヴァ市が資金拠出をしている。

敷地の全体像について、その他の情報と全貌を写真 14～16 に示す。中長期的には手を入れる必要がある擁壁や複数の保存予定の建物など、地形的条件としても敷地全体の利活用としてもこれから時間をかけて手が入っていく事例である。



写真 16 建物の保存と取り壊しの予定

(見開き合わせ)

章タイトル

コンテンツ

コンテンツ

コンテンツ

コンテンツ

コンテンツ

コンテンツ

1. 参加者一覧

氏名 Name

- ①所属 Affiliation and Title
- ②学位 Degree,
- ③経歴 Career,
- ④専門分野 Field of specialization,
- ⑤最近の研究テーマ Subject of study,
- ⑥主な業績 Major works and publications

1 山田あすか YAMADA ASUKA

- ① Tokyo Denki University, Professor
東京電機大学教授
- ② Dr.Eng.at Tokyo Metropolitan University
博士（工学）（東京都立大学）
- ③ 2018- Professor at Tokyo Denki University
2009- Associate Professor at Tokyo Denki University
2006-2009 Lecturer at Ritsumeikan Univ.
- ④ Architectural Planning and Design,
Environmental Behavior Design 建築計画, 環境行動
- ⑤ Architectural planning for a community based on clothing, food and housing 衣・食・住を起点とするコミュニティの場の計画
- ⑥ 『テキスト建築計画』（共著、学芸出版社、2009）、『こどもの環境づくり事典』（共著、青弓社、2014）、『建築設計テキスト 高齢者施設』『建築設計テキスト こども施設』（共著、彰国社）、『福祉転用による建築・地域のリノベーション 成功事例で読みとく企画・設計・運営』（共著、学芸出版社、2018）、『医療・福祉施設における利用者本位の建築計画に 関する一連の研究 - 環境行動、施設計画、制度と 都市環境のスケールを縦断して』日本建築学会賞（論文、2018）

2 小篠 隆生 OZASA TAKAO

- ① Hokkaido University, Associate Professor
北海道大学准教授
- ② Dr. Eng.at Hokkaido University
博士（工学）（北海道大学）
- ③ 2006-Associate Prof. at Hokkaido university
- ④ City Planning and Architecture, Campus planning キャンパス計画、都市デザイン、建築計画
- ⑤ Regeneration of City through Planning Public Facility 地方都市における公共建築を核とした連鎖的まちづくりに関する研究
- ⑥ 東川町立東川小学校+地域交流センター（2014年北の聲アート奨励賞、2016年赤レンガ建築奨励賞、2018年日本建築学会北海道建築賞）、東川小学校・地域交流センターとその周辺環境整備（2015年アジア都市景観賞）

3 古賀 政好 KOGA MASAYOSHI

- ① Tokyo Denki University, Researcher
東京電機大学研究員
- ② Dr.(Eng.)at Tokyo Denki University
博士（工学）（東京電機大学）
- ③ 2014- Takenaka Corporation / Researcher at Tokyo Denki University
2014年 - (株)竹中工務店 / 東京電機大学研究員
- ④ Architectural Planning and Design 建築計画
- ⑤ Study on inclusive environmental design that realizes both Open System Type childcare / education and special support オープンシステム型保育 / 教育と特別支援との両立を実現する包摂型環境設計の研究
- ⑥ 『こどもの環境づくり事典』（共著、青弓社、2014）、『空き家・空きビルの福祉転用 地域

4 土田 寛 TSUCHIDA HIROSHI

- ① Tokyo Denki University, Professor
東京電機大学
- ② Dr. Eng, Tokyo Denki Univ.
博士（工学）（東京電機大学）
- ③ 1988- Urban Design Institute, 2008-Urban Design Studio, 2010-Tokyo Denki University
1988- 都市環境研究所（代表土田旭）
2008- アーバンデザインスタジオ代表
2010- 東京電機大学
- ④ Urban Design, Projyect Design, City Planning
都市デザイン, プロジェクトデザイン, 都市計画
- ⑤ Urban and District forms / The context of the formation and maturity of public spaces / Establish urban space planning and design theory 都市、地域のかたち / 公共空間の成立と成熟の文脈 / 都市空間の計画、設計論の確立
- ⑥ 川崎富士見公園（地域整備方針、基本計画、概略設計、実施設計）、汐留地区都市デザイン（ガイドライン作成、街路景観計画ならびに設計、公園基本計画ならびに設計、建築外構デザイン調整、地域管理組織設立基本計画ならびに運営、景観デザイン調整（街並みデザイナー：東京都しゃれた街並み推進条例に基づく）

5 萩原 雅史 OGIHARA MASASHI

- ① Tokyo Denki University, Senior Lecturer
東京電機大学講師
- ② M. Eng. at Kyoto University, 修士（工学）（京都大学）
- ③ 2016- Senior Lecturer at Tokyo Denki University
- ④ Architectural Planning and Design
Architectural Design
- ⑤ Study on complex base facilities in rural areas, Nishikimachi Secret Base Museum design 2018

6 西野 辰哉 NISHINO TATSUYA

- ① Kanazawa University, Associate Professor, 金沢大学准教授
- ② Dr. Eng. at The University of Tokyo, 博士（工学）（東京大学）
- ③ Associate Professor at Kanazawa Univ. (April 2013)
Assistant Professor at Hiroshima Univ. (May 2005-Mar. 2007)
- ④ City Planning and Architecture, Right sizing of Public Community Facilities
- ⑤ Model of a Community-Based Care Environmental System for 'Aging in Place' -A Case Study from a Historical Port Town in Japan- T. Nishino, S. Nakatani, Japan Architectural Review Vol. 1, No. 4 pp. 504-518, Oct. 2018

7 佐藤 栄治 SATO EIJI

- ① Utsunomiya University, Associate Professor
宇都宮大学准教授
- ② Dr. Eng. at Tokyo Metropolitan University, 博士（工学）（首都大学東京）
- ③ 2008-2010 厚生労働省国立保健医療科学院
2010- 宇都宮大学
- ④ Urban Analytistics 都市解析, Limitations of Medical and Welfare Services in Declining Populations in Local Cities 人口減少期の地方都市における医療・福祉提供の限界性
- ⑤ 『コンパクトシティ再考』（共著、学芸出版社）、建築学会奨励賞、都市住宅学会奨励賞

8 古賀 誉章 KOGA TAKAAKI

- ① Utsunomiya University, Associate Professor
宇都宮大学准教授
- ② Dr. Eng. at The University of Tokyo
博士（工学）（東京大学）
- ③ 1995-2000 Nakamura Ben and Associates,

2010- Assistant Prof. at The Univ. of Tokyo,
2015- Associate Prof. at Utsunomiya Univ.
1995-2000 中村勉総合計画事務所
2010- 東京大学助教
2015- 宇都宮大准教授

- ④ Environmental Psychology, Architectural Planning, Environmental Engineering, Architectural Design
建築環境心理学、建築計画、環境工学、建築設計
- ⑤ Facility for the elderly and social community / Facility for the children / Development of human evaluation index / Development of Extra drainage system and renovation コミュニティと関わる高齢者福祉施設 / 幼稚園・保育園の計画 / 評価指標の開発 (明るさ・生体リズム・負担感・景観など / 拡張排水システムの開発・普及とストック活用
- ⑥ 『PEAP にもとづく認知症ケアのための施設環境づくり実践マニュアル』(共著、中央法規出版)、『こどもの環境づくり事典』(共著、青弓社)、『建築設計テキスト 高齢者施設』(共著、彰国社)、『「かわいい」と建築』(共著、海文堂出版)、建築設計約 30 件

9 加藤 悠介 KATO YUSUKE

- ① Kinjo Gakuin University, Associate Professor
金城学院大学准教授
- ② Ph.D at Osaka City Univ.
博士 (学術) (大阪市立大学)
- ③ 2015- Associate prof. at Kinjo Gakuin Univ.
2014-2015 Associate Prof.at National Institute of Technology, Toyota College.
2007 年豊田工業高等専門学校助教、講師、准教授
- ④ Architectural Planning and Design, Design of Welfare Environment
建築計画・福祉施設計画
- ⑤ Study on conversion of empty house and building into welfare facility / Action research

on environmental design for dementia care
空き家などの既存ストックを活用した福祉施設
計画 / 高齢者介護施設における環境改善のアクションリサーチ

- ⑥ 『福祉転用による建築・地域のリノベーション
成功事例で読みとく企画・設計・運営』(共著、
学芸出版社)、『実践事例から読み解くサービス
付き高齢者向け住宅』(共著、中央法規)

10 松原 茂樹 MATSUBARA SHIGEKI

- ① Osaka University, Associate Professor
大阪大学
- ② Dr.(Eng.) at Osaka university
博士 (工学) (大阪大学)
- ③ 2006-2014 Assistant Prof. at Osaka university
2014- Associate Prof. at Osaka university
- ④ Architectural Planning, Enviromental Behavior
- ⑤ Planning of welfare facilities converted from
other building to revitalize the community
Ibashi-physical and psychological place
- ⑥ 『福祉転用による建築・地域のリノベーション
成功事例で読みとく企画・設計・運営』(共著、
学芸出版社, 2018)
『まちの居場所 一ささえる / まもる / そだてる /
つなぐ』(共著、鹿島出版会, 2019) "

11 濱崎 裕子 HAMAZAKI YUKO

- ① Kurume University, Professor
久留米大学
- ② Dr. Eng. at Chiba Univ, 博士 (工学) (千葉大学)
- ③ 2010- Professor at Kurume Univ.
2006-2012 Prof.at Nagasaki International Univ
- ④ Environmental Design Community Planning,
Environmental Design for Child Development
and Care, Development of Community Care
through Citizen Participation Kirara Shobou,
2008

12 斎尾 直子 SAIO NAOKO

- ① Tokyo Institute of Technology(TOKYO TECH)/

Associate Professor, 東京工業大学准教授

- ② Dr.Eng., 博士 (工学)
- ③ Mitsubishi Research Institute,Inc./ University of Tsukuba / Université catholique de Louvain / 2011-Tokyo Institute of Technology(TOKYO TECH)
- ④ A r c h i t e c t u r a l P l a n n i n g ,
Urban and Rural Planning
- ⑤ Primary and middle school planning and community design / University campus planning and urban renewal / Recovery planning of fishing villages from the Great East Japan Earthquake
- ⑥ 『ラーバンデザイン 「都市×農村」のまちづくり』(共著、技報堂出版), 『地域と大学の共創まちづくり』(共著、学芸出版社), 『いまからのキャンパスづくり』(共著、日本建築学会), 『震災復興から俯瞰する農村計画学の未来』(共著、農林統計出版)